文部科学省

資料５

第16回AOGEOシンポジウムの開催結果について

令和6年9月24日

文部科学省 研究開発局 環境エネルギー課

第16回AOGEOシンポジウム（その1）

1. 期　間：　令和6年9月3日(火)～9月5日(木)
2. 場　所：　東京国際交流館（対面及びストリーミング配信で実施）
3. テーマ：　“Creating Earth Intelligence with the Asia Oceania Society”
4. 主　催：　GEO事務局、文部科学省
5. 出席者：　294名（オンライン参加者を含む）
（アフガニスタン、インド、インドネシア、エジプト、オーストラリア、韓国、カンボジア、スリランカ、タイ、中国、トルコ、トンガ、ニカラグア、日本、ネパール、パキスタン、バングラデシュ、フィリピン、フランス、米国、ベトナム、マレーシア、モルディブ、モンゴル）
6. 概　要：

(1) 基調講演「Earth Observations for Impact」

- 馬奈木九州大学主幹教授から、地球観測データを活用したウェルビーイング（幸福感）の測定に関する研究について基調講演が行われた。

(2) プレゼンテーション「The Road to Post 2025: Strategy Implementation Plan」

- Murdock氏（GEO事務局）より、地球インテリジェンスの概要を含め、GEOの次期戦略や現在検討中の新たな実施計画に関する発表が行われた。

(3) 参加国からのGEO関連活動報告

- 12か国※の代表者より、自国及び国際協力による衛星データの活用事例（土地被覆、気象・防災、農業など）や人材育成に関する取組、地球インテリジェンスの創出に資するイニシアチブ、衛星データの活用/地球インテリジェンスの創出に係る課題（持続的な人材育成（データ解析技術など）やソフトウェア/設備の必要性）などが共有された。
※オーストラリア、インドネシア、日本、韓国、モルディブ、モンゴル、ネパール、タイ、トンガ、ベトナム（ビデオ発表：カンボジア、中国）

(4) 特別セッション①：『すべての人に早期警報システムを』のイニシアチブのための地球インテリジェンス

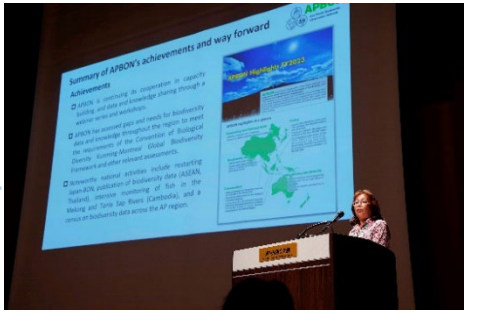
- モデレータ：Prof. Megan Lewis（AOGEO共同議長、オーストラリア）
- プレゼンテーション「Earth Intelligence: concept and applications for Early Warnings for All」：
  Dr. Sara Venturini（GEO事務局）
- パネリスト：Ms. ENDO Chinatsu（国連防災機関 (UNDRR) バンコク事務所）
  Mr. Ahmed Rasheed（モルディブ気象局）
  Mr. Prakash Joshi（ネパール国土管理・協同組合省測量局）
  Dr. Della Grace Bacaltos（フィリピン ダバオセントラルカレッジ）
  Dr. Agnes Lane（オーストラリア気象局）（オンライン）
- 議論概要：Venturini 氏より、地球インテリジェンスの活用可能性や既存の取組事例が紹介された。その後、パネリストより、各国・組織の取り組みや課題（データの取扱いに関する人材育成の必要性、衛星データや現場観測データの不足等）が共有されたほか、気象による影響を予測する “impact-based forecasting” の重要性への認識が共有された。

第16回AOGEOシンポジウム（その2）

文部科学省

(5) 分科会セッション

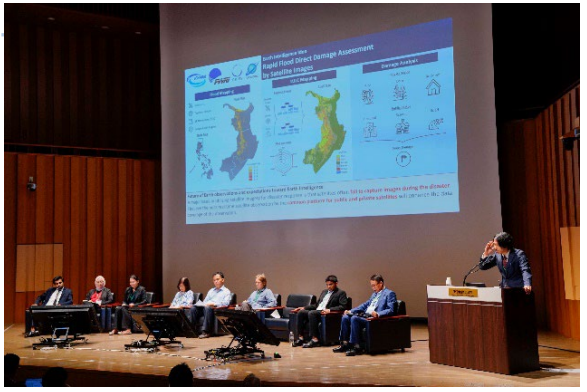
- 「アジア水循環イニシアティブ(TG1)」「アジア太平洋生物多様性観測ネットワーク(TG2)」「GEO炭素・GHGイニシアティブ(TG3)」、「海洋・沿岸・島嶼(TG4)」、「農業と食料安全保障(TG5)」「環境モニタリングと保護(TG7)」の6つの分科会が開催され、これらの議論の結果は、「2024 AOGEO Statement」に反映された。
  ※TGとはTask Groupのこと。AOGEOのもとに12のTGが設置されている。



(6) 分科会活動報告

- TG1～TG5及び TG7の代表者から、全体会合において、分科会セッションでの議論結果を含むこれまでの活動状況が報告された。主な課題として、衛星データの校正を目的とした現場観測データの必要性、他の分科会や民間企業等との協力及びデータ共有の重要性、人材育成やGEOコミュニティと現地ニーズのギャップを埋める活動の必要性があげられた。

(7) 特別セッション②「次世代の研究者に焦点を当てて」



- モデレータ：Dr. Gu Xingfa（AOGEO共同議長、中国）
- パネリスト：Mr. llangasingha Sanjeewa Punsiri Bandara（スリランカ マハウェリ開発庁）
  Mr. KURIHARA Yuta（株式会社オリエンタルコンサルタンツグローバル）
  Dr. Alice C. Hughes（香港大学）
  Dr. Jutarak Luang-on（国立研究開発法人海洋研究開発機構）
  Dr. Parwati Sofan（インドネシア国家研究イノベーション庁）
  Dr. Faisal Mumtaz（中国 空天信息創新研究院）
  Prof. Yongyut Trisurat（タイ カセサート大学）
  Dr. Thuy Le Toan (フランス 生物圏宇宙研究センター)
- 議論概要：若手研究者から、現在の研究活動や地球インテリジェンスの創出・活用に対する期待・課題が発表された。これらの発表を踏まえ、衛星地球観測に長年携わる研究者から、現地調査や現場観測データを用いた検証の必要性や、研究結果を行動に繋げる情報に転換させることの重要性等のフィードバックが行われた。さらに、衛星データの準リアルタイムでの提供、官民学・分野横断的な協力、データそのものに対する理解の重要性や、多様なデータを扱うための人材育成の必要性が確認された。

(8) 「2024 AOGEO Statement」の採択

- 各セッションでの発表や議論の結果を踏まえ、本シンポジウムの意義や概要、AOGEOコミュニティからの提言を取りまとめた「2024 AOGEO Statement」が採択された。

アジア・オセアニア地域GEO (AOGEO: Asia-Oceania GEO) について
地球観測に関する政府間会合（GEO: Group of Earth Observation）と連携し、世界のそれぞれの地域の地球観測活動を行う4つの地域GEO（米州、欧州、アフリカ、アジア・オセアニア）の１つ。アジア・オセアニア地域の23か国が参画し、日中韓豪の４か国が共同議長国をつとめている。また、アジア・アセアニア地域の地球観測に関する知識の共有や新たな課題の特定等を目的として、定期的にAOGEOシンポジウムを開催している。